

南宮大社 御由緒

かなやまひこのみこと
 金山彦命を主祭神に、旧国幣大社で美濃国一の宮として、また全国の鉾山、金属業の総本宮として、今も深い崇敬を集めています。現在の建物は、慶長五年（一六〇〇年）の関ヶ原合戦の兵火によつて焼失したものを、寛永十九年（一六四二年）、春日の局の願いにより三代將軍徳川家光公が再建したものであります。広い境内には本殿・拝殿・楼門など、朱塗りの華麗な姿を並べ、江戸時代の神社建築の代表的な遺構十八棟が、国の重要文化財に指定されています。年間を通じ大小五〇余の祭典が斎行され、五月五日の例大祭、十一月八日の金山祭（ふいご祭）など特殊な神事があります。



▲御神宝



▲御田植神事



▲蛇山神事



▲母衣

例祭神事日程

五月四日	末社神田代神社御田植祭齋行 御田植神事 美濃国総社末社数立神社例祭 還幸舞（羯鼓舞、脱下舞、龍子舞）	おいてください 午後三時 午後五時 試楽
五月五日	例大祭（猷幣使参向） 神幸式 発輿祭 神輿、母衣花等渡御 御旅神社（美濃国府宮）着輿祭 蛇山神事、還幸舞奉奏 還幸祭	午前十時 午後二時 午後二時半 午後四時半 午後七時頃



南宮大社例大祭

国指定無形民俗文化財



5月4日

御田植神事

5月5日

例大祭

- 蛇山神事
- 神輿渡御
- 還幸舞

例大祭 (神幸式・蛇山神事)

当町府中に鎮座される御旅神社へ神輿三基の神幸祭が行われます。途中、市場野という祭礼場に、高さ十三メートル、周囲二十メートルの蛇山と称する櫓を組み立て、これに波模様の幕を纏らし、この頂上の隅には神木の松と竜の尾を示す剣を取りつけて、神輿の通過や駐輦の時「ドンドコドン」の囃子に合わせて勢いよく蛇頭を上下左右にゆり動かし、口を開閉させます。これは美濃国の置山の「からくり」の始まりといわれ、また神輿が還幸し、市場野駐輦の時、蛇山の前に連結された車衆では、その年に選ばれた少年男子四人が、各々の囃子唄に合わせて、還幸舞〔羯鼓舞・脱下舞・龍子舞〕と呼ばれる三種の舞楽を交互に演舞します。

国指定無形民俗文化財 神事芸能

御田植祭

内庭に齋田を仮設し、早乙女と呼ばれる少女(三才〜五才位)二十一人が、手甲・禰姿で、金の雄蝶、銀の雌蝶の折紙を髪につけ、囃子方の太鼓、笛、鼓の田植歌に合わせて、松葉を苗に見立てて植えつける神事で、古くは末社神田代神社の齋田で行われたものであります。

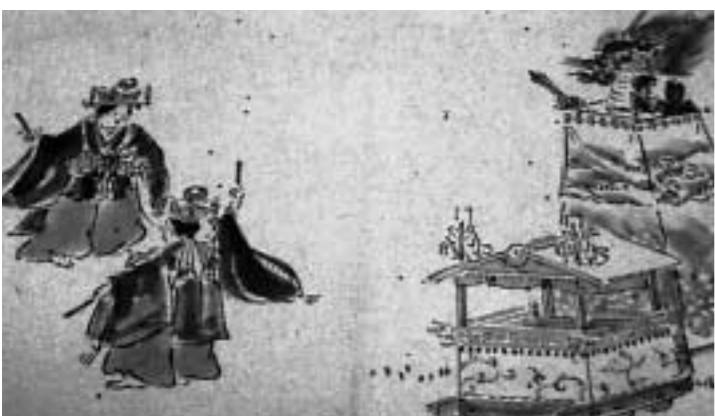
田植唄 (御田植神事)

- 植え植えそとめ、田笠こうてとらそうぞ。田笠こうてたもるなら、なおも田をも植えようよ。
- 懸想文とらそうぞ。けそぶみたもるなら、なをも田をも植えようよ。
- けそぶみ持たりとも、なにがおしぞ、みめわるゆたことつらにくさよ。
- みとみとすまして、水鏡をみたりとも。
- 美濃のお山の白玉椿、こがねの花が咲きかかろ。こがねの花をとらそうぞ。こがねの花をたもるなら、なおも田をも植えようよ。
- 西が千町、東が千町、南が千町、北が千町、中の千町で五千町植え植えそとめ、田笠こうてとらそうぞ。
- 田笠こうてたもるなら、なおも田をも植えようよ。なおも田をも植えようよ。



▲還幸舞 (龍子舞)

神事芸能諸資料



▲絵巻

室町時代の記録に、南宮大社の神事芸能が記録されているように、大変古くから祭典はおこなわれていました。また祭典の様子を描いた絵巻物が残されており、人物の表情や服装、当時の風俗などがよく表現されている貴重な資料です。また龍子舞の竜頭・羯鼓舞の羯鼓・脱下舞の加賀友禅なども宝物殿に納められています。



▲羯鼓舞



▲御田植神事



▲脱下舞

有難舞 (脱下舞)

「ありがたや、〜ところはんじょうの御代なれや、山やだんじり、神のむかいに〜。」
 「あめにきる、〜みののを山の松が枝ぞ、ともに崇ゆる神の上に〜。」
 「けふことに、〜にぎはふ国のみやしらや、山や花かき神のみまへに〜。」
 「ひさやまに、〜崇ゆる松の御代なれば、立まふ袖の千とせかきぬる〜。」